

RS ウイルスワクチン予防接種について

～予防接種に欠かせない情報です。接種の前に必ずお読みください～

この予防接種は義務ではありませんが、メリットが副反応リスクなどを上回ると判断されたため、国として接種を勧めるものです。接種するかどうかは、ご自身で判断ください。

RS ウイルス感染症とは

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRSウイルス感染症発生数は12～18万人であり、3～5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気を必要としたとする報告もあります。

RSウイルスの流行には季節性があり、新型コロナウイルスの流行以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行がみられています。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行いません。

【対象者】 接種時点で、妊娠28週0日～36週6日までの妊婦

過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチンを接種したことのある方も対象です。

【接種料金】 無料

【接種方法】 1回0.5mlを筋肉内に注射（ファイザー社のアブリスボ®）

【持ち物】 予診票、母子健康手帳

【接種場所】 町内委託医療機関（下表）または、岐阜県広域化予防接種の委託医療機関（県のホームページ参照）で受けることができます。事前に予約をしてください。

※県外への里帰り出産などによりやむを得ない事情で、上記医療機関での接種が困難な場合は、接種前に保健センターへご相談ください。

町内委託医療機関	電話番号	住所
伊藤医院	058-324-0030	北方 1636 番地
いとうレディースケアクリニック	058-323-7101	北方 3195 番地
いのうえクリニック	058-323-8077	芝原東町 3 丁目 50 番地
こやまかわせみクリニック	058-201-7755	高屋清流 2 丁目 63 番地
さとうファミリークリニック	058-323-2511	小柳 1 丁目 95 番地
鹿野クリニック	058-324-1222	高屋白木 2 丁目 77 番地
杉山こどもクリニック	058-320-3322	柱本南 1 丁目 306 番地
東堀クリニック	058-320-1700	若宮 1 丁目 7 番地

母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるものです。

接種要注意者

- ・接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- ・筋肉内に注射するため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
- ・組換えRSウイルスワクチン(アブリスボ)の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある方
- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある方
- ・予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ・けいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ・免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方

ワクチンの効果

		生後90日時点	生後180日時点
母子免疫ワクチンの効果	RSウイルス感染症による医療受診を必要とした下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
	RSウイルス感染症による医療受診を必要とした重症下気道感染症(※)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸、SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

また、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もあるものの、交絡因子等の影響の可能性があることから解釈に注意が必要であるとされています。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛※(40.6%)、頭痛(31.0%)、筋肉痛(26.5%)
10%未満	紅斑※、腫脹※
頻度不明	発疹、蕁麻疹

※ワクチンを接種した部位の症状
添付文書により厚労省にて作成

接種後の注意点

・ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。当日の激しい運動は控えるようにしてください。

予防接種による健康被害救済について

予防接種により、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が発生した場合に、救済制度が設けられています。接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。予防接種による健康被害については、北方町保健センターまでご相談ください。

北方町保健センター 平日8時30～17時15分 電話(058)323-7600